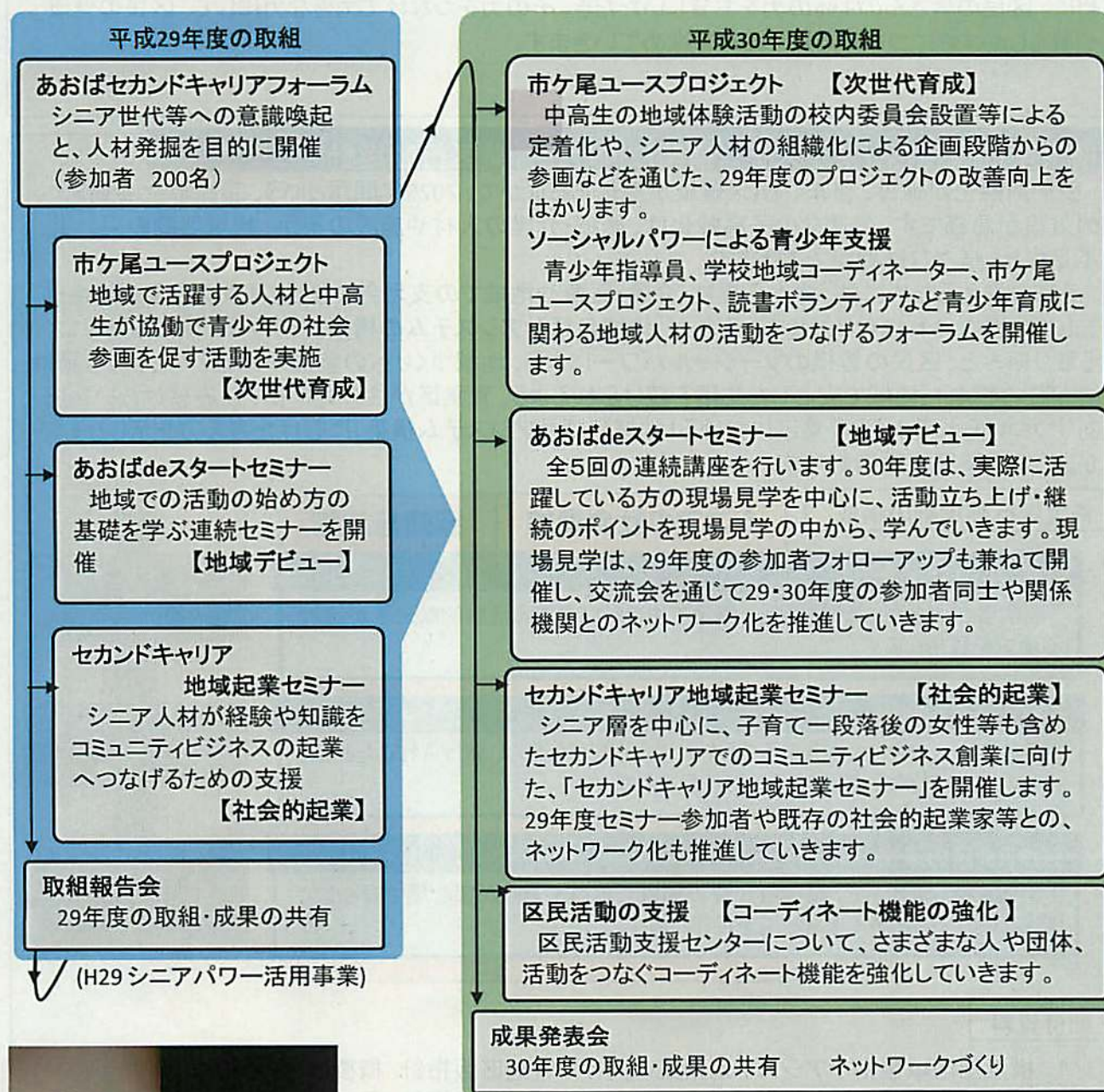


ソーシャルパワーの発揮 ～あなたの力の1%をあおばの未来に！～

青葉区では、将来にわたり選ばれるまちであり続けるため、「あなたの力の1パーセントをあおばの未来に！」を合言葉に、区民の皆さんにも青葉区の将来のために一歩踏み出していただくことを目的とした新たな取組を始めています。

平成30年度は、さらに取り組みを拡充し展開します。新しいつながりや、手法を編み出しながら、未来に向けた地域づくりを進めていきます。



裏面あり

あなたの力の1%をあおばの未来に！ ～ソーシャル・キャピタルの醸成にむけて～

地域活動や地域との交流の活発化により、地域全体の人間関係の豊かさや、地域力、社会の結束力・信頼関係である「ソーシャル・キャピタル」が醸成されます。ソーシャル・キャピタルが醸成され、高まるほど、健康、学力、くらしやすさ等が比例して向上するといわれています。青葉区は年少人口(15歳未満)が18区中第2位で、若い人が多いイメージがありますが、これからは人口が減少し、急速に高齢化が進みます。こうした中では、皆が少しずつ助け合わなければ、福祉や教育、まちづくりや地域活動も機能しなくなってしまいます。

そこで 区民の皆様、お一人おひとりが自らの力の1%を、地域や他者に向けてることによって、さらに住みよい青葉区となることを目指していきます。皆がちよとずつ助け合う文化が醸成されれば、まちの大きな付加価値になります。これからも「住みつけたい・住みたいまち青葉」であり続けるために、区民の皆さんの1%の力をお貸しいただき、その力をつなげて大きな力にして、区民の健康や暮らしやすさにつながる取り組みを進めていきます。

横浜型地域包括ケアシステム構築に向けた青葉区行動指針について

少子高齢化が進み、目まぐるしく環境が変化するなかで、2025年問題という、超高齢社会到来への対策が急務です。急速な少子高齢化は、医療・介護の人材や施設の不足、地域活動の担い手不足など、様々な影響がでできます。

それに備えるためには、今から福祉・介護・医療や地域での支え合いなど、様々な要素を維持・拡充していかなければなりません。それが「地域包括ケアシステムの構築」です。専門職の連携による取り組みと、区民の皆様のソーシャルパワーによる、地域づくりへの参加が両輪となります。高齢者が住み慣れた地域で安心した生活を続けられるよう、青葉区が住みたい街、住み続けたい街でありつづけられるよう、青葉区における「地域包括ケアシステム構築」にむけた考え方を示したものが、この青葉区行動指針です。

青葉区行動指針の構成

シニアの社会参加

認知症施策

健康づくり・介護予防

高齢者が人とつながりながら、健康で生きがいのある活動的な生活を送れる地域を目指します。

生活支援体制整備

高齢者一人ひとりが、出来ることを大切にしながら暮らし続けられるために、多様な主体が連携・協力する地域を目指します。

医療と介護の連携

疾病を持ちながらも、高齢者が住み慣れた地域や自らが望む場で安心して暮らし続けることができる地域を目指します。

健康な
うちから

生活に
支援が必要

在宅での
療養生活

配付資料

- 1 横浜型地域包括ケアシステム構築に向けた青葉区版指針 概要版 案
- 2 横浜型地域包括ケアシステム構築に向けた青葉区版指針 骨子 案
→現在策定中の第7期横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画を構成する一部となります。

あおばこどもシステムについて

「あおばこどもシステム」は、子どもに関わる人々が個別に支援するだけでなく、横断的に連携することで支援を深めていく仕組みです。

この「あおばこどもシステム」構築の中心的な役割を担うのが、「あおばこどもシステムつながりミーティング」です。この会議では、子育て支援に携わる地域の皆さんと関係機関の代表者が集まり、新たな取組の実現に向けて検討しています。

1 つながりミーティングでの主な意見

【転入者への支援】

- ・青葉区は転入が多いが、「知り合いがいない、どこに行ったらよいかわからない」という話をよく聞く。転入者へのサポートがあるとよい。

【子育て支援】

- ・公民保育施設協働の育児支援イベントである「なしかちゃんひろば」は、1か所ではなく分散して地域でやってもいいのではないか。
- ・幼児期から小学校への切れ目のない支援が必要である。

【障害児への支援】

- ・ライフステージが変わっても、障害の特性や支援の経過が次の支援者にスムーズに引き継がれるよう「母子健康手帳の障害児版」があるとよい。
- ・自立支援協議会児童部会で課題になっているのが、学校と事業所との連携である。それぞれが持っている情報を共有する場がない。

【児童虐待防止】

- ・児童虐待防止には早期発見・早期対応が重要である。
- ・保育園・幼稚園・学校などに児童虐待への理解が広がり、早い段階からの児童相談所や区役所への相談が増えている。

【中高生の居場所作り】

- ・中高生の居場所作りを進めて欲しい。区に1か所でなく、身近な場所にあるとよい。読書など様々な活動を通じたつながりを作る場としても期待できる。

2 あおばこどもシステムでの主な事業

【転入者への支援】

Welcomeあおば子育てツアー<平成29年度対応><平成30年度継続>

転入者等を対象に青葉区内の6地域でまち歩きをしながら、子育て資源や魅力を紹介しました。

【子育て支援】

子育てまち探検隊<平成30年度対応>

区民モニターによる子育てまち探検隊が区内をリサーチし、青葉区の子育て情報等について、意見交換を行います。

- ・実施回数：年7回
- ・実施場所：区内子育て関連エリア

ミニ拠点ひろば<平成30年度対応>

地域子育て支援拠点及びサテライトから遠いエリアで、子育ての情報や相談、読み聞かせ等の活動を推進します。

- ・実施回数：年9回
- ・実施場所：区内子育て関連エリア

地域子育て支援拠点サテライトの開所<平成29年度対応>

- ・名称：地域子育て支援拠点ラフルサテライト
- ・開所までの予定：平成29年12月～平成30年3月中旬 開所準備
平成30年3月26日 開所、開所式

【施設の概要】

- ・所在地：青葉区市ケ尾町1152番地25
- ・運営法人：特定非営利活動法人ワーカーズ・コレクティブパレット（既存拠点の委託法人）
- ・面積：224.82㎡（既存拠点は275.92㎡）
- ・構造：木造2階建て戸建の1階＋別棟（2階はオーナーの住居）
- ・主要事業：親子の居場所、子育て相談、情報の収集と提供、利用者支援

【障害児への支援】

障害児支援事業<平成29年度・30年度対応>

障害児及び保護者が、一人ひとりの障害特性やライフステージに応じた一貫した支援を受けられるよう、「サポートファイル かけはし」（平成30年3月発行）を地域活動ホーム、地域療育センター、学校、保育園等と検討を重ねながら作成しました。

今後は、より適切な支援につなげられるよう「サポートファイル かけはし」を活用し、保護者と支援者、学校や関係機関等との連携を深めていきます。また、発達障害に関する講演会等による啓発を行います。

- ・実施回数：年4回
- ・開催場所：区役所等

【児童虐待防止】

児童虐待防止対策事業<平成30年度対応>

児童虐待の未然防止のために、早い時期から気軽に相談できるよう保育付きの相談を実施します。また、急増する児童虐待の通告や相談へ迅速・適切に対応できるよう、一時預かり事業所連絡会や弁護士をスーパーバイザーとした支援強化検討会を開催し、体制強化を図ります。

- ・実施回数：保育付き相談の実施 12回
一時預かり事業所連絡会 1回
支援強化検討会 2回

【中高生の居場所作り】

ブックカフェ事業<平成30年度対応>

山内図書館や区民文庫サロンなどを活用したブックカフェを開催し、青少年の居場所づくりを推進します。

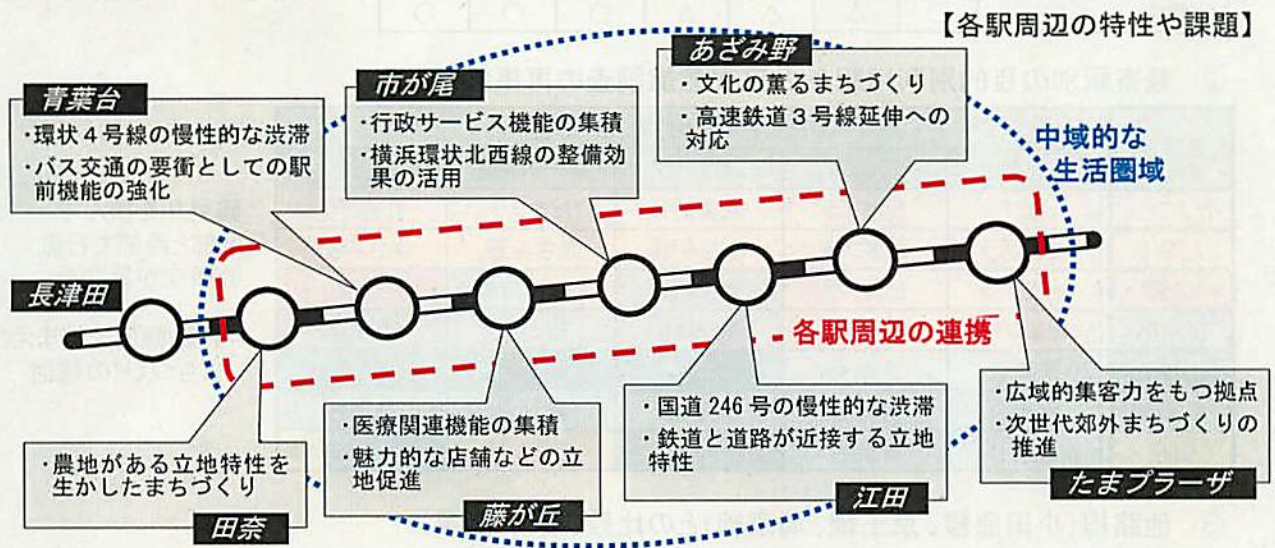
- ・実施回数：年8回

田園都市線沿線まちづくり検討事業について

1 事業概要

田園都市線の開通から 50 年が経過し、各駅周辺では、団地再生をはじめとした開発の検討が活発化しています。しかしながら、各駅の課題の違いや検討の熟度に差があることにより、個別に対応している状況がありました。

そこで、民間事業者の力を活用し、駅ごとの特性を生かした機能を適切に誘導することに加え、区の総合調整のもと、駅周辺相互の機能分担・連携により、中域的な生活圏域を形成し、区民の多様なニーズに対応するまちづくりを行うため、29 年度より、「田園都市線駅周辺のまちづくりプラン」の見直しや、庁内会議による総合調整を進めています。



2 平成 29 年度の実績

(1) 「田園都市線駅周辺のまちづくりプラン」の見直し検討

- 田園都市線沿線の現況整理（裏面参照）

区民意識調査の再集計、他路線（小田急線、京王線、埼京線）との比較等を行い、区民ニーズや商業・業務機能等の状況を整理。

- 各駅の機能分担・連携の考え方の整理（裏面参照）

商業・業務等の機能配置の考え方や各駅が持つ機能の連携の考え方等を整理。

(2) 「田園都市線沿線まちづくり検討会」の開催

各駅のまちづくりの状況を情報共有するとともに、区が総合調整を図りながら、駅周辺の機能分担等について検討する庁内会議を開催しました。（6月、12月、3月（予定））

【参加区局】 建築局、都市整備局、道路局、緑区、青葉区

3 今後の事業スケジュール

平成 30 年度 各駅プランの見直し検討

平成 31 年度 各駅プランの見直し検討、「田園都市線駅周辺のまちづくりプラン」改定

4 平成 30 年度予算

6,000 千円（区局連携促進事業）

ア 田園都市線沿線の現況整理

① 駅周辺環境の満足度(H23区民意識調査の再集計) ○:満足 △:どちらでもない ×:不満

機能	満足度						
	たまブラ	あざみ野	江田	市が尾	藤が丘	青葉台	田奈
送迎用駐停車スペース	△	×	△	×	△	×	×
駐輪場の位置・量	△	×	△	×	△	△	△
座れる場所・落ち着ける場所	△	×	△	×	△	△	△
飲食店	○	△	×	×	△	△	×
個性的・魅力的な店	△	×	×	×	△	△	×
病院・診療所	△	△	△	△	○	△	△
高齢者福祉施設	△	△	△	△	△	△	×
保育園・子育て支援施設	△	△	△	△	△	△	△
自然環境	○	△	△	△	○	○	○

・「自然環境」の満足度は高い傾向にある。
 ・「個性的・魅力的な店」の満足度は低い傾向にある。
 ・たまブラは評価が相対的に高く、藤が丘は「病院・診療所」の満足度が高い。

⇒各駅の特長や課題を踏まえたまちづくりの検討

② 最寄駅別の目的別利用駅(H23区民意識調査の再集計)

最寄駅	目的別最も利用されている駅				
	会食	買い物	スポーツ	文化的活動	通院
たまブラ	たまブラ	たまブラ	たまブラ	たまブラ	たまブラ
あざみ野	たまブラ	たまブラ	あざみ野	あざみ野	あざみ野
江田	たまブラ	たまブラ	市が尾	あざみ野 青葉台	江田
市が尾	たまブラ	たまブラ	市が尾	市が尾	市が尾
藤が丘	青葉台	青葉台	藤が丘	藤が丘	藤が丘
青葉台	青葉台	青葉台	青葉台	青葉台	青葉台
田奈	青葉台	青葉台	長津田	あざみ野	藤が丘 青葉台 田奈

鶴見川を挟んで、東部と西部で行動の傾向が異なる。

⇒行動傾向を踏まえたまちづくりの検討

③ 他路線(小田急線、京王線、埼京線)との比較(業務・商業)

○ 比較対象路線(東京都心部までの所要時間や乗降客数が青葉区と同程度となる区間を選定)

・ 小田急線・・・新百合ヶ丘～町田(5駅) ・ 京王線・・・府中～高幡不動(6駅)

・ 埼京線・・・武蔵浦和～大宮(6駅)

○ 比較結果

業務・・・乗降客1人あたりの事業所数や就業者数は最も少ない。(小田急線よりやや少なく、その他路線よりは大幅に少ない。)

商業・・・乗降客1人あたりの小売店舗数は最も少ないが、小売店売上額は最も高い。

店舗面積当たりの販売額は最も高く、最も低い小田急線の約1.7倍。

駅間・・・「たまプラーザ」を「新百合ヶ丘」と比較すると、乗降客数が約2/3と少なく、従業者数も約4割ほど少ない。一方、乗降客1人あたりの小売店売上額は約2倍ほど高い。

⇒沿線の強みと弱みを踏まえたまちづくりの検討

イ 各駅の機能分担・連携の考え方の整理

各駅が備える機能の方向性や各駅のまちづくりプランを検討するにあたっての考え方を整理。

機能分担	①各駅に備える機能の大きさや種類を他駅とのバランスをとりながら決定し、沿線全体として最大限機能を発揮させる考え方。 ②当該駅周辺だけで解決ができない課題がある場合、他の駅で必要な機能を確保し、課題を解決する考え方。
機能連携	①それぞれの駅にある同じ機能を連携させ、より有意義にサービスを提供する考え方。 ②ある駅だけが持つ固有の資源や魅力を他の駅でも享受できる仕組み等を構築し、沿線全体で共有する考え方。 ③異なる機能同士を連携させることで、相乗効果により各機能を高める考え方。

沿線全体で区民の多様なニーズに対応するまちづくりを進めるため、駅ごとの特性や区民の行動傾向を踏まえるとともに、駅周辺相互の機能分担・連携の具体化を視点として、各駅プランの見直しを進めます。

花と緑があふれる街づくりについて

青葉区では、全国都市緑化よこはまフェア開催に合わせて、青葉区内を花で彩り、花と緑に関するさまざまな取組を行う「フラワーネックレス青葉2017」を実施しました。

自治会・町内会をはじめ、学校、保育園、幼稚園、商店会、各種団体、民間企業の皆さんにご協力をいただき、区内が花でいっぱいになりました。この取組が一過性で終わらないよう、引き続き花や緑を育てる担い手育成や、活動支援、普及啓発などを行うことで活動の裾野を広げていきます。

区民の皆さまにご協力いただきながら、花と緑の取組を進めることで、街の魅力を高め、さらに住みよい青葉区となることを目指していきます。

1 花と緑の風土づくり

子育て世代も含め、幅広い世代が気軽に参加できる「花と緑」のワークショップや事例研究などを実施し、花と緑を通じて多世代交流を促し、公園愛護会やハマロード・サポーターなどで既に活動をしている人と、新しく活動に参加したい人をつなげるネットワークづくりを行います。市民団体との協働により、民間の発想力やネットワークを活かし、大学や企業など、多様な主体と連携を図ることで、花と緑の取組を広げていきます。

2 花と緑の活動支援

フラワーネックレスに参加し、花壇やプランターを設置した地域の団体や緑化ボランティア「あおば花と緑のサポーター」などに花苗を配布し、活動を支援するほか、スキルアップのための研修会等を開催します。



3 あおば一鉢活動

フラワーネックレスの期間中、ご家庭の玄関先や店先など、多くの人を楽しめる場所に花を飾っていただくことで、青葉のまちを花でいっぱいにした、「あおば一鉢活動」を引き続き推進していきます。

4 予算額

6,580千円

内訳:5,500千円(環境創造局区配予算)

1,080千円(個性ある区づくり推進費)

